

平成 30 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校  
 学校長 河 本 史 幸

評 価 日	平成 31 年 2 月 25 日 (月)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等部の評価がCであるが、指導計画の検討や支援の仕方、学習の進め方など話し合ったり研究グループで授業について検討したりできたことと8割の肯定的評価があるのでBでもよいのではないか。</li> <li>・ 立てた計画ができなかったことが時間外業務10%削減達成と関連しているか。今後さらなる時間外業務削減について、25%削減はリアリティーに欠けると思う。高等部は進路の面でも外に出ることが多くなるので、目標の立て方、活性させるための具体的な施策を明確にすることが大事だと思う。</li> </ul> <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価において、高等部も進路指導課も現場実習とキャリア教育の関連に全く触れてないので、教育実践として報告してもらおうのがよいと感じた。</li> </ul> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul> <p>3. 取組改善のための提言</p> <p>【保護者アンケートから】</p> <p>○教職員の挨拶について、できていない教員がいると毎回書かれていることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校に来たとき、自分から挨拶をすると子どもや先生から挨拶が返ってくる。この保護者は、挨拶されるのを待っているのだと思う。</li> <li>・ 保護者にとっては初めて先生に会った日の印象が残る。挨拶、返事をすることは徹底する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報、検討会等については肯定的評価8割であり、評価はBでもよいと考えたが、高等部として本来目指す「深めていく」部分ができたとはいえないのでCとした。</li> <li>・ わかりやすい評価方法を検討していく。</li> <li>・ 関連してはいない。25%削減については、学校としても難しいと考えている。教職員の意識が変わり、時間外業務はかなり減っている。教育の質を落とさないよう、働き方改革は進めていきたい。</li> <li>・ 自己評価表については、重点目標について掲載している。学校関係者評価委員会では、進路の取り組みなど報告していく。</li> <li>・ 予算要求額満額はもらえなかったが、創意工夫しながら、交流や様々な活動に取り組んでいきたい。</li> <li>・ 職員に対しては、少し高めの声、笑顔、自分から進んでなど常に気持ちよい挨拶をするようにいつている。今後も引き続き、気をつけていきたい。</li> </ul>	

<p>ことが大切である。</p> <p>○医ケアについて、保護者に相談なく変更があったということについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校の説明責任が果たせるようにすること、説明を理解してもらうことが大切である。</li></ul> <p>○アンケートについて、誰が書かれたものかわかると対応ができるのでよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・医ケアについては、保護者に相談なく変えることはない。ただ学校の説明がうまく保護者に伝わっていなかったのかもしれない。今後十分な説明を心がけたい。</li><li>・現在無記名でのアンケートとしているが、今後記名してもらうように考えたい。</li></ul>
--	---